

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)
病院薬剤師へのタスク・シフト/シェア普及に対する阻害要因の把握と
その解決に向けた調査研究 (22IA0101)
統括研究報告書

「医師から病院薬剤師へのタスク・シフト/シェアの進展の阻害要因や課題に関する実態
の把握、分析 ～患者アンケート調査～」

研究代表者 寺田智祐 京都大学・教授
研究分担者 米澤淳 慶應義塾大学・教授
研究分担者 岡田浩 和歌山県立医科大学・教授
研究協力者 杉本充弘 京都大学・薬剤師

研究要旨

がん化学療法において、処方・検査の代行オーダーや診察前面談など医師から病院薬剤師へのタスク・シフト/シェアが多く施設で進みつつあるものの、がん患者が病院薬剤師に求める役割を調査した報告は少ない。本研究では、患者のニーズを把握するために、アンケート調査を実施し、医師に聞きたいことを十分に聞いていない患者が少なくないことが明らかとなった。抗がん剤の説明や副作用マネジメント以外にも、医師と患者をつなぎ、治療において心の支えになること等多岐に渡る患者への関わりが求められており、外来治療においても患者が病院薬剤師と面談できる時間・場所の確保が、医師および患者双方にとって有用であることが示唆された。

A. 研究目的

令和3年9月30日に厚生労働省から「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」が発出され、現行制度の下で医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例や、推進するに当たっての留意点等が示されている。医師から薬剤師へ薬剤関連業務をシフトすることで、医師の業務負担軽減のみならず、医薬品適正使用や医療安全の推進の効果が期待される。しかし、病院薬剤師へのタスク・シフティン

グは必ずしもすべての病院で進んでいるわけではなく、進展の阻害要因の解明が求められる。すなわち、病院薬剤師業務をより効率的で生産性の高い業務構造に変革するための現状課題の抽出、論点整理が必要である。

令和2～3年度に実施された厚生労働科学研究「病院薬剤師へのタスク・シフティングの実態と効果、推進方策に関する研究」(研究代表者:外山聡)の調査では、多くの施設で病院薬剤師へのタスク・シフティングが実施されていたが、その業務量は1週

間で 10 時間程度とかなり少ないことが明らかとなった。また、「タスク・シフティングの推進に係る施設特性を明らかにする必要がある」と考察されている。本研究では、病院薬剤師に対する患者のニーズをアンケート調査により検証・分析を行い、病院薬剤師が患者の期待に応えるためにできることを解明する。

B. 研究方法

アンケート原案を作成した後、公衆衛生学専門家およびがん患者の会「がんママカフェ」のメンバーにご協力をいただき、アンケート内容を完成させた。京都大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院に通院するがん治療を受けている外来患者を対象に、無記名自記式アンケート調査を実施した。

データ収集項目は、以下の通りとした。

1. 基本情報（性別、年齢、がん罹患期間、がんの種類、使用している抗がん剤の剤型、がん治療に伴う有害事象、相談対応可能な薬剤師の有無、病院薬剤師との相談機会の有無）
2. 医師との意思疎通
3. 病院薬剤師の必要性
4. 病院薬剤師に関わってほしいこと（選択式、図 1）
5. 病院薬剤師への要望（自由記載）

（倫理面への配慮）

研究実施にあたり京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け承認され（承認番号：R3946）、協力研究実施施設の承諾を得て実施している。

C. 研究結果

2023 年 9 月に 310 名を対象にアンケート調査を行い（別資料 1_質問紙）、244 名から回答が得られ、回収率は 78.7%であった。このうち、患者の属性およびがんに関する基本情報についてのアンケート返信がなかった 5 例を除外し、239 例のアンケートについて解析を行った。

施設ごとの回答者数

	N
伊勢赤十字病院	71
岐阜大学医学部附属病院	93
京都大学医学部附属病院	75
回答した人数	239

問 1. 性別

	N
男性	115
女性	123
回答した人数	239

問 2. 年齢

	N
0-19 歳	0
20-39 歳	8
40-59 歳	45
60-79 歳	158
80 歳以上	28
回答した人数	239

問 3. がんの種類

	N
白血病	1
悪性リンパ腫	12
脳腫瘍	3

甲状腺がん	5
肺がん	53
乳がん	43
胃がん	16
肝臓がん	11
膵臓がん	22
大腸がん	30
子宮頸がん	3
子宮体がん	3
卵巣がん	8
膀胱がん	9
骨・軟部腫瘍	4
その他	44
回答した人数	239

問 4. がんと最初に診断されてからの期間

	N
3ヶ月以内	19
3ヶ月-1年	71
1-2年	48
2-5年	53
5年以上	47
回答した人数	238

問 5. 現在使用中の抗がん剤について

	N
抗がん剤未使用	11
飲み薬のみ	28
注射薬のみ	134
飲み薬と注射薬の併用	61
回答した人数	234

問 6. 現在、がんや抗がん剤の治療に伴う症状などで抱えている問題はありますか？

	N
ない	56

便秘	50
下痢	40
吐き気	30
口内炎	33
しびれ	78
痛み	27
皮疹	42
疲労感や倦怠感	84
味覚異常や食欲低下	53
感染症予防	11
血圧管理	14
その他	32
回答した人数	235

問 7. 病気のことや薬のことについて、気軽に相談できる薬剤師はいますか？

	N
いない	90
いる（病院薬剤師）	126
いる（薬局薬剤師）	45
回答した人数	237

問 8. これまでに病院薬剤師と、お薬のことについて相談する機会がありましたか？

	N
ある	172
ない	66
回答した人数	238

問 9. がん治療を継続していく中で、治療のこと以外にもお薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、自分の思いや聞きたいことについて、診察時に医師に十分伝えられていますか？

	N
十分伝えられている	149

伝えきれていない	
診察時間が短い	28
診察時に思い出せない	38
雰囲気がよくない	7
その他	5
回答した人数	214

問 10. がん治療を継続していく中で、お薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、病院薬剤師にも相談したいですか？

	N
病院薬剤師にも相談したい	184
医師/看護師にしか相談したくない	11
回答した人数	195

問 11. ポスターの中で、病院薬剤師に関わってほしいこと、相談したいことを選んで該当する番号をすべて○で囲んでください。

	N
抗がん薬の作用の仕方・効能・効果に関する説明	141
がん治療に伴う副作用に関する説明・相談	158
副作用症状を和らげる薬についての提案	132
主治医に相談しづらい・聞けずに悩んでいることに関する相談	62
がんの治療費に関する相談	31
がん治療に関する悩み・心のケア	56
がんの痛みに関する相談（緩和ケア）	56
痛みの緩和に用いる医療用麻薬に関する説明・情報提供	50

在宅療養・ホスピスに関する相談・支援	27
がんの新規治療法（治験や臨床試験など）に関する情報提供	94
がん治療に関わりのない常用薬に関する相談	72
服用が苦手な薬（錠剤・カプセル・粉薬 等）に関する相談	21
服用できずに手元に余っている薬の調整に関する相談（薬を減らす相談）	34
サプリメントや市販薬についての相談	65
薬の飲み合わせに関する確認、情報提供	92
薬の服用状況の確認、服薬状況改善のための支援	31
日常生活での注意点や生活習慣に関する説明・相談	75
がん治療中の仕事や学業に関する相談・支援	13
栄養指導・食事指導	62
がん治療による妊娠・出産への影響についての相談	5
その他	2
回答した人数	206

問 12. 問 11 の中で、病院薬剤師に関わってほしいこと上位 3 つを選んで、番号を記載してください。

	N
抗がん薬の作用の仕方・効能・効果に関する説明	94
がん治療に伴う副作用に関する説明・相談	118

副作用症状を和らげる薬についての提案	87
主治医に相談しづらい・聞けずに悩んでいることに関する相談	18
がんの治療費に関する相談	11
がん治療に関する悩み・心のケア	17
がんの痛みに関する相談（緩和ケア）	18
痛みの緩和に用いる医療用麻薬に関する説明・情報提供	11
在宅療養・ホスピスに関する相談・支援	6
がんの新規治療法（治験や臨床試験など）に関する情報提供	34
がん治療に関わりのない常用薬に関する相談	17
服用が苦手な薬（錠剤・カプセル・粉薬 等）に関する相談	1
服用できずに手元に余っている薬の調整に関する相談（薬を減らす相談）	5
サプリメントや市販薬についての相談	17
薬の飲み合わせに関する確認、情報提供	18
薬の服用状況の確認、服薬状況改善のための支援	6
日常生活での注意点や生活習慣に関する説明・相談	24
がん治療中の仕事や学業に関する相談・支援	2
栄養指導・食事指導	16
がん治療による妊娠・出産への影響についての相談	1
回答した人数	180

施設ごとの内訳は、京都大学医学部附属病院 75、岐阜大学医学部附属病院 93、伊勢赤十字病院 71 であり、施設による偏りは見られなかった。回答者の年齢は、20-39 歳：3%、40-59 歳：19%、60-79 歳：66%、80 歳以上：12%であり、およそ 8 割が 60 歳以上であった。がんの罹患期間は、3 ヶ月以内：8.0%、3 ヶ月-1 年：29.8%、1-2 年：20.2%、2-5 年：22.3%、5 年以上：19.7%であり、罹患しているがんの種類は、肺がん、乳がん、大腸がんの順で多く、概ね部位別がん罹患数と一致していた（図 2）。使用している抗がん剤の剤型は、注射薬のみが 57.3%と半数以上を占めており、次いで内服薬と注射薬併用：26.1%、内服薬のみ：12.0%、抗がん剤の使用なし：4.7%であった。がん治療に伴う有害事象については、76%の患者が問題を抱えており、3 割超の患者は疲労感や倦怠感、末梢神経障害を抱えており、次いで味覚異常や食欲低下（22.6%）、便秘（21.3%）、皮疹（17.9%）の順が多かった（図 3）。また、72%の患者は病院薬剤師との相談機会があったが、28%の患者は相談機会がないと回答した。病気のことや薬のことで気軽に相談できる薬剤師がいるかの問いでは、62%の患者はいると回答しており、そのうち病院薬剤師は 69.4%、薬局薬剤師は 14.3%、病院薬剤師/薬局薬剤師両方は 16.3%であった（図 4）。

医師の診察時には、設問に回答した患者の 30.4%が自分の思いや聞きたいことを医師に伝えきれていないと回答しており、伝えきれていない主な原因は、診察時に言いたいことを思い出せないことや診察時間が短いことであった（図 5）。その他、薬剤に関する説明が不足し治療法についても理解できない、患者から聞かないと詳しい内容

を言ってくれない、治療が始まったばかりで仕方がないが医師には相談しづらい、質問しても丁寧に教えてくれないといった意見があった。

また、設問に回答した患者のうち、9割超の患者は、がん治療の中で病院薬剤師にも相談したいと考えていた。一部医師や看護師にしか相談したくないとの回答が得られたが、その内容は、医師や看護師が聞いてくれるため薬剤師に相談することがない、放射線療法とホルモン療法のため薬剤師に相談する必要性がない、治療を受けているうちに質問することも解決しているというものであり、薬剤師に相談したくないという意見はなかった。

患者が病院薬剤師に関わってほしいと想定される内容を図1のようにポスターに記載し、1人3項目以内で選択していただいた回答では、図6に示すようにがん治療に伴う副作用に関する説明・相談(65.6%)が最も多く、抗がん薬の作用の仕方・効能・効果に関する説明(52.2%)、副作用症状を和らげる薬についての提案(48.3%)と、主にがん治療に関する副作用や抗がん薬の説明が求められていた。続いて、がんの新規治療法(治験や臨床試験など)に関する情報提供(18.9%)、日常生活での注意点や生活習慣に関する説明・相談(13.3%)、主治医に相談しづらい・聞けずに悩んでいることに関する相談(10.0%)、がんの痛みに関する相談(緩和ケア)(10.0%)、薬の飲み合わせに関する確認、情報提供(10.0%)、がん治療に関する悩み・心のケア(9.4%)、がん治療に関わりのない常用薬に関する相談(9.4%)、サプリメントや市販薬についての相談(9.4%)となっていた(図6)。

病院薬剤師に望むこととして、自由記載で44人から以下の意見を得た(一部抜粋)。

- ・通院でもいつでも相談出来たらよい。
- ・医師と薬剤師と一緒に話をしてほしい。
- ・現状は点滴中しか時間がないが、薬剤師とじっくりと相談できる時間・場所を提供してほしい。
- ・薬剤師と会話できる機会が多く、相談に乗ってもらっているので安心できる。
- ・薬剤師は優しく話してくれるので、こういう人には相談しやすい。
- ・診察前とか診察・治療後とかに、少し接する時を作っていただき、話をしていただいたら「ホッと」する思いになる。
- ・医師には何か質問しにくいときもあるのですが、薬剤師にはリラックスしてなんでも聞けるので助かっている。
- ・抗がん剤で命や生活に支障をきたす副作用について細かい情報をくれたらありがたい。
- ・抗がん剤投与の状況がわかる表をもらってチェックができ、重宝している。
- ・入院中、口内炎がひどく食事がとれなかったとき、薬の使い方を丁寧に聞くことができてよかった。
- ・医師と薬剤師に同じ副作用の症状のことを伝えると、医師からは提案のなかった薬の情報を教えてもらえるので、とても助かっている。
- ・薬の作用・副作用について医師からも聞くが、薬剤師からプラスで教えてもらえる。「医師が言っていた事はそういう事だったのか」と思えることでもあるのでありがたい。また、副作用を和らげる薬についても何種類あってどんな違いがあるか教えてもらっている事、助かっている。

・抗がん薬を治療して今日で1週間となるが、初日に病院薬剤師から、治療の概要・副作用・そして副作用の対処方法等説明あり、また本日も1週間後の副作用症状を和らげる提案があった。今後、治療の悩みが出たらよく相談したい。

・ナースコールで話せなかったときに薬剤師が見回りに来てくれて助かった。

・薬剤師と直接会話する機会はほとんどなく、質問しにくくなっていると思うので、積極的に話しかけてもらえれば、話しやすくなると思う。



図 1. アンケート調査に用いたポスター

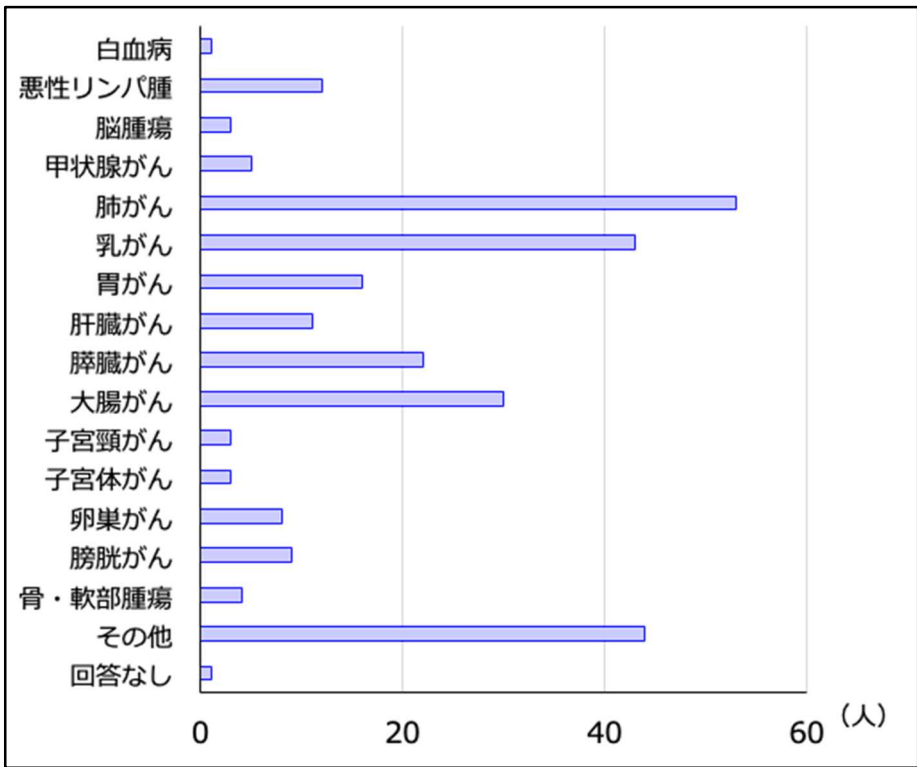


図 2. 罹患しているがんの種類（複数回答）

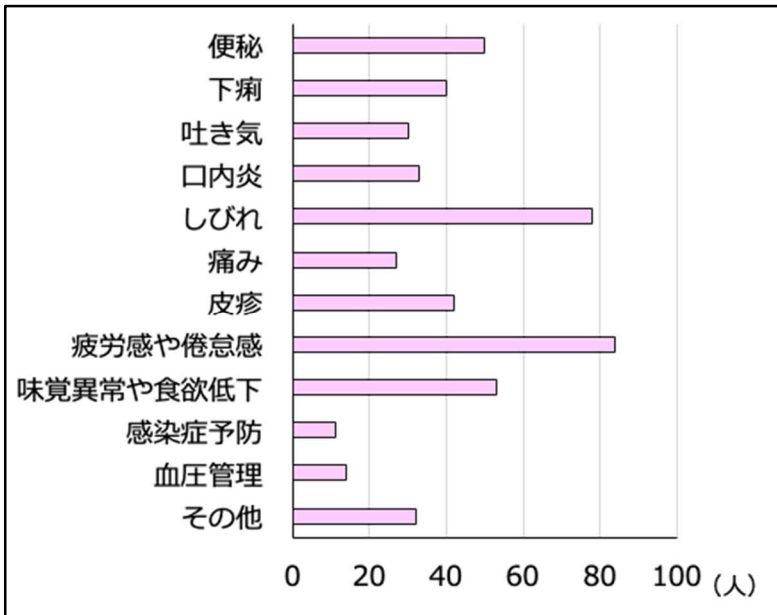


図 3. がん治療に伴う有害事象

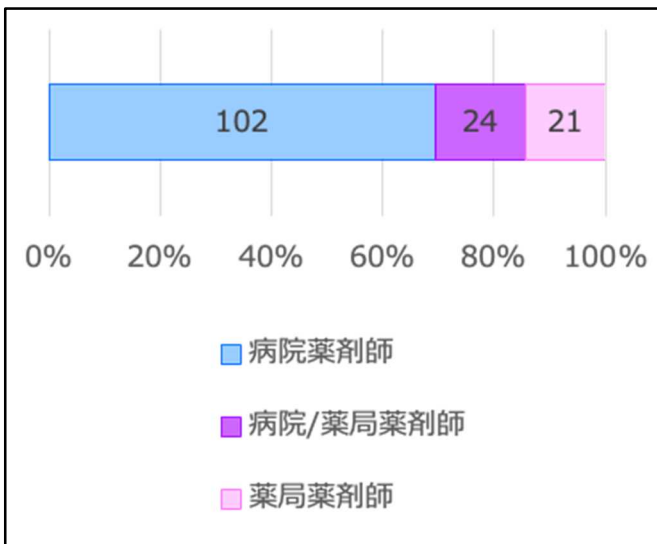


図 4 . 相談できる薬剤師の病院/薬局の比率 (N=147)

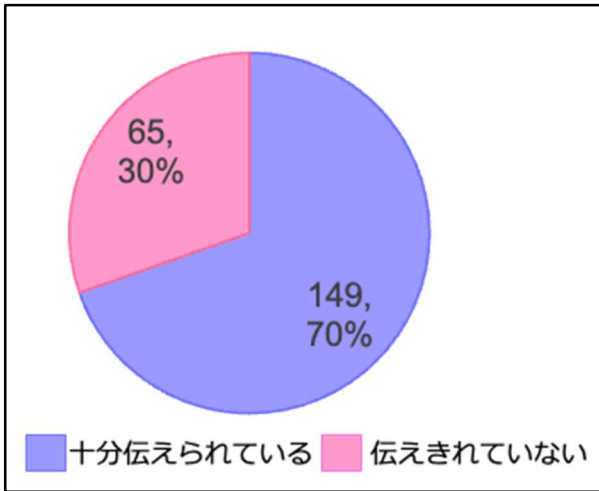


図 5(a). 診察時に医師に意思を伝えられているか (N=214、回答なし : 25)

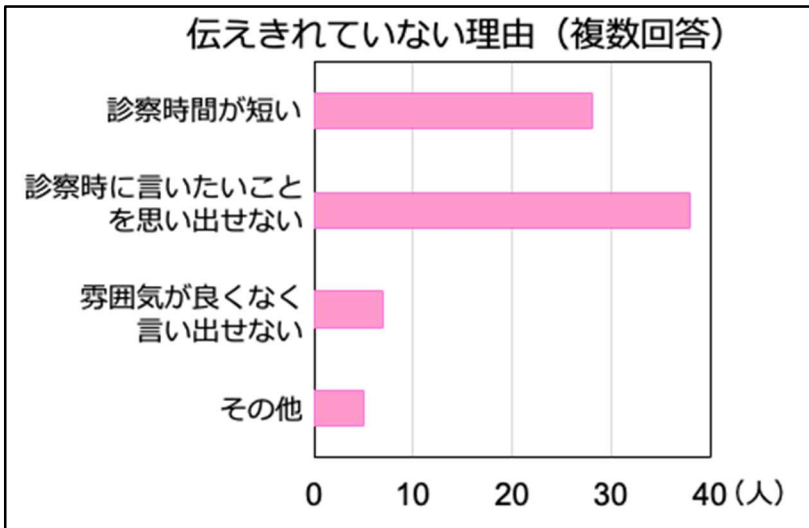


図 5(b). 診察時に医師に意思を伝えきれていない理由 (N=214、回答なし : 25)

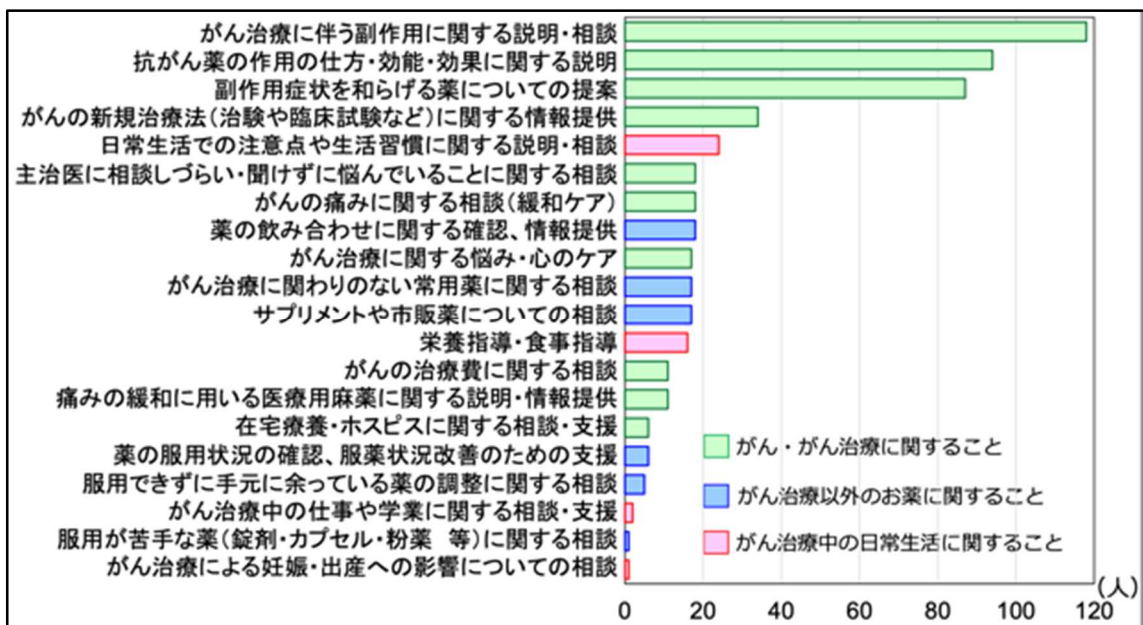


図 6. アンケートから得られた病院薬剤師に関わってほしいこと (N=180、回答なし : 59)

D. 考察

本研究では、3施設でアンケート調査を行ったが、回答は施設の偏りなく得られた。また、アンケートに回答いただいた患者背景は、60歳以上の患者が8割を占めており、肺癌や乳がん、大腸がんの患者が多い結果となったが、がんの罹患リスクを考慮すると、本アンケート調査は概ねがんサバイバーの現状を反映していると考えられる。

診察時に、医師に思いや聞きたいことを伝えられていない患者は3割に上っていたことから、がん治療を受けるにあたり、外来では患者が十分に納得して治療を受けられていない可能性が考えられた。診察時に医師に意思を伝えられていない理由として、診察時間の短さ、診察時に言いたいことを思い出せないが主に挙げられていることから、患者が納得して満足に治療を受けるためには、診察時に医師への相談時間の確保が必要であると考えられる。しかしながら、現状医師は過重労働となっており、医師の負担軽減が求められている。一方、がん治療を継続していく中で、お薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、病院薬剤師にも相談したいと思っている患者は9割を超えていたことから、病院薬剤師が患者との相談機会を設けることにより、患者の意思を医師や看護師などに伝え、患者と医療者をつなぐ役割を担うことができる。病院薬剤師が医師の診察前に、患者の意思や症状などを聞き取り、医師に効率的に伝えることで、患者のニーズも満たしつつ、医師の負担も軽減できると考えられる。

また、患者が病院薬剤師に関わってほしいこととして、半数の患者はがん治療に伴う副作用に関する説明・相談や抗がん薬の

作用の仕方・効能・効果に関する説明、副作用症状を和らげる薬についての提案など、抗がん薬の説明や副作用マネジメントについての関わりを求めていたため、薬剤師の職能を發揮し、薬剤指導を行う必要があるが、その他にも常用薬についての相談やがん治療に関する心のケア、日常生活での注意点など、抗がん薬にとどまらず多岐にわたる患者への関わりが求められていることが明らかとなった。

最後に、病院薬剤師に望むこととして自由記載にて得られた意見からは、主に外来においても病院薬剤師と面談できる時間・場所の提供と、抗がん薬治療や副作用等についての説明が求められていた。加えて、抗がん剤治療において、薬剤師はリラックスして話すことができ、心の支えとなっているという意見も多くあったことから、病院薬剤師は、患者と面談できる時間を確保することが喫緊の課題である。そのためには、薬剤師から薬剤助手へのタスクシフトや医師の負担軽減に加えて薬剤師の業務効率向上が見込めるPBPMの導入など、病院薬剤師の負担を軽減できるような業務展開を検討する必要があると考えられる。

E. 結論

抗がん薬の説明だけでなく、診察時に主治医に伝えられていない問題や日常生活での相談など、病院薬剤師に対する外来がん患者のニーズは高い。医師・患者双方のメリットとなるタスク・シフト/シェアの効果的な推進に繋げるためにも、病院薬剤師は外来においても患者との面談時間を確保することが大きな課題である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

杉本充弘、米澤淳、池見泰明、幾田
慧子、岡田浩、眞中章弘、長縄華子、
西郷雅美子、小川晃宏、飯原大稔、
三宅知宏、鈴木昭夫、寺田智祐；ア
ンケート調査から考えるがん患者
が病院薬剤師に期待すること、日

本臨床腫瘍薬学会第 13 回学術大

会 2024 年 3 月 3 日 神戸

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

資料. 外来でがん化学療法（抗がん剤治療）を実施されている患者さんへ

～病院薬剤師に関するアンケート調査のお願い～

がん治療の領域では、一人の患者さんに複数の医療専門職が連携して治療やケアにあたるチーム医療が行われています。例えば、診断や治療方針の決定は医師が行いますが、生活支援については看護師、薬物療法・副作用の支援は薬剤師、食事や栄養の支援は管理栄養士が担当するなど、各職種の専門性に応じた役割を担っています。チーム医療の質を向上させ、患者さんに対して質の高い医療やケアを提供するために、患者さんに対して病院薬剤師ができること、あるいは患者さんが病院薬剤師にして欲しいことを調査しています。なお、回答にあたっては、患者さんご本人による回答が難しい場合は、ご家族または介護者の方に回答いただいても結構です。

このアンケートは京都大学医の倫理委員会にて承認されており、回答するかしないかはあなた（またはご家族や介護者の方）の自由意思です。回答を拒否したり、回答の内容などによって、あなたが不利益を被ることは一切ありません。このアンケート結果は、他の医療機関の患者さんの回答と合わせて評価・分析を行ったり、医療を司る行政や関係機関に提出・利用されたり、学会や論文などで発表されることがありますが、あなたのお名前などの個人情報特定されることはありませんのでご安心ください。

回答に要する時間は10分程度と考えられます。回答は、同封の返信用封筒に入れて送付いただきますようお願いいたします。

何卒ご協力いただきますようお願いいたします。

施設 No. _____

【あなた（患者さん）のことについて教えてください】

問1. 性別

- 男性 女性

問2. 年齢

- 0～19 歳 20～39 歳 40～59 歳 60～79 歳 80 歳以上

問3. がんの種類

- 白血病 悪性リンパ腫 脳腫瘍 甲状腺がん 肺がん
 乳がん 胃がん 肝臓がん 膵臓がん 大腸がん
 子宮頸がん 子宮体がん 卵巣がん 膀胱がん 骨・軟部腫瘍
 その他（)

問4. がんと最初に診断されてから現在までの期間（治療していない期間も含む）

- 3ヶ月以内 3ヶ月～1年 1年～2年 2～5年 5年以上

問5. 現在、使用中の抗がん剤について

- 抗がん剤は使用していない
 飲み薬のみ
 注射薬（点滴、皮下注射、筋肉内注射）のみ
 飲み薬と注射薬（点滴、皮下注射、筋肉内注射）の併用

問6. 現在、がんや抗がん剤の治療に伴う症状などで抱えている問題はありますか？

- ない
 ある（以下からあてはまるものをすべて○で囲んでください）
・便秘 ・下痢 ・吐き気 ・口内炎 ・しびれ ・痛み ・皮疹
・疲労感や倦怠感 ・味覚異常や食欲低下 ・感染症予防 ・血压管理
・その他（)

問7. 病気のことや薬のことについて、気軽に相談できる薬剤師はいますか？

- いない
 いる（病院薬剤師）
 いる（薬局薬剤師）

問8. これまでに病院薬剤師と、お薬のことについて相談する機会がありましたか？

- ある
 ない

【以下の質問では、がん治療を受けるにあたり、普段感じていることを教えてください】

問9. がん治療を継続していく中で、治療のこと以外にもお薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、自分の思いや聞きたいことについて、診察時に医師に十分伝えられていますか？（複数回答可）

- 十分伝えられている
- 伝えきれていない（診察時間が短くて伝えきれないため）
- 伝えきれていない（診察時に言いたいことを思い出せないため）
- 伝えきれていない（雰囲気がよくなく言い出せないため）
- 伝えきれていない（その他の理由があれば、以下の欄に理由を記載して下さい）

問10. がん治療を継続していく中で、お薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、病院薬剤師にも相談したいですか？

- 病院薬剤師にも相談したい
- 医師や看護師にしか相談したくない（以下の欄に理由を記載して下さい）

問11. ポスターの中で、病院薬剤師に関わってほしいこと、相談したいことを選んで該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

(回答) 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10
11 ・ 12 ・ 13 ・ 14 ・ 15 ・ 16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 ・ 20

その他にも具体的に病院薬剤師に関わってほしいことがあれば、自由に記載して下さい。

問12. 問 11 の中で、病院薬剤師に関わってほしいこと上位 3 つを選んで、番号を記載して下さい。

回答 ()、()、()

問13. 病院薬剤師に望むことがあればご自由に記載して下さい。(余白や別紙に記載頂いても結構です)

以上でアンケートは終了です。

同封の返信用封筒に入れて、アンケート用紙をポストに投函してください。

この度はアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。